

日本ジャージー登録協会通常総会 概要

ジャージーの新たな遺伝性疾患

日本ジャージー登録協会(高村祝次会長)は去る5月28日、新型コロナウイルス感染症予防のため、第76回理事会並びに第65回通常総会を书面決議により開催し、令和2年度の事業報告及び収支決算報告を承認したほか、令和3年度の事業計画案及び収支予算案の議案のすべてを原案通り可決承認した。

第76回理事会では、ジャージー種の新たな遺伝性疾患についての報告があった。

アメリカジャージー登録協会では、2020年11月に前肢捻転を伴うジャージー神経障害(JNS:Jersey Neuropathy with Splayed Foerelimb)を遺伝的疾患に指定し、カナダジャージー登録協会でもJNS 遺伝子の存在を確認して、その対応を急いでいると報告があった。

このJNSの症状は、前肢の伸筋の著しい硬直や過度に側方へ外転し、前肢を曲げて起立できない症状が見られる。他の症状として、頭頸部痙縮やけいれん行動などの神経的症状、肩関節の脱臼や先天性の顔面奇形、変形脊髄障害の報告がある。日本の血統登録娘牛を調査したところ、全国で16頭のJNS 保因種雄牛によって1,601頭の登録娘牛がいることが判明した。

今後当協会では、Web ページでJNSに関する記事とJNS 保因種雄牛を掲載して交配回避およびそれに伴う近交上昇に対する注意喚起と、北米等から輸入されるジャージー種雄牛については、JNS 検査を実施した種雄牛を輸入してもらうよう、農林水産省や関係機関に要望する等の対処をする。

協議事項では、遺伝子型調査に関する取扱要項の改正について事務局から提案された。

遺伝子型調査のうち、異性双子を検査する「フリーマーチンの判定」に必要な検査試料(血液)の採血器材(採血管・採血針等)は、(一社)家畜改良事業団(以下、事業団)から委託団体に必要数量を配布していたが、店舗販売業の許可の関係で採血器材を配布することができないことから、今後は現地で採血器材を調達してほしい旨の通知があり、業務委託している(一社)日本ホルスタイン登録協会から支部・承認団体等に対して配布中止の連絡をするとともに、事業団に対して現地での負担が増えることから検査料金の見直しをお願いした。

これに対し、事業団からフリーマーチン判定の検査料を令和3年7月1日から110円(税込)引き下げる通知があったことから、当協会の遺伝子型調査の種類と料金ならびに、(別記)調査資料の内容及び採取・送付方法等についての改正(案)について、異議なく承認された。

ジャージー関連の交流会の開催準備

第65回通常総会では、第1号議案の(1)令和2年度事業報告について概要報告が行われた後、異議

なく了承された。令和2年度会員数は一年会員237名、終身会員19名、合計256名で前年比96.6%、血統登録頭数は雌1,509頭、雄2頭で特に雌については前年比104.6%と増加した。審査成績証明は牛群分、個体分どちらも前年度よりも大きく減少、検定成績証明は牛群分が前年比83.4%であった。特に審査成績証明については、新型コロナウイルスによる緊急事態宣言により、令和2年度前期に都府県において審査中止となり審査が大きく減少。第15回全日本ホルスタイン共進会の中止により検定証明申込みも減少した。

次に第1号議案の(2)令和2年度収支決算報告では、収入計690万1千円で、会費収入は予算対比102.4%で、血統登録料収入は予算対比で106.7%と増加した。一方、第15回全日本ホルスタイン共進会の中止により関連する支出が無くなり支出計は512万6千円で、当期収支差額は175万5千円で予算額を445万5千円上回った。

収支決算書決算監査については、監事から「適正である」との報告が行われ、協議の結果、原案のとおり承認された。

第2号議案の(1)令和3年度事業計画案については、原案のとおり承認された。

ジャージー種の血統登録申込見込頭数は1,456頭を計画。この頭数は、前年度の実績より微増で計画した。審査成績及び検定証明は前年度より少なく計画した。ジャージー関連者の交流を図るための視察交流会について、新型コロナウイルスが終息し、安全に開催できる時期での開催に向けた準備をする。

次に(2)令和3年度収支予算案では、血統登録頭数・審査成績証明・検定成績証明それぞれの件数に沿って予算を計上した結果、収入の合計は681万円となり、前年度予算に比べて9万1千円の増加を見込む。支出は特に共進会催事費が前年度より324万円減少となったことから、支出合計は616万9千円となり、前年度予算に比べて322万2千円減を見込んだ。

令和3年度の当期収支差額は64万1千円で、繰越収支差額879万2千円を加算した次期繰越収支差額は944万3千円を見込むことで、原案のとおり承認された。

全国ジャージー酪農振興協議会総会 概要

登録協会の通常総会に引き続き、全国ジャージー酪農振興協議会（加藤賢一委員長）の第48回委員会・44回総会が書面決議により開催された。

第48回委員会では、第44回総会付議事項として、第44回通常総会に切り替え開催した。

第44回総会付議事項について、第1号議案の(1)令和2年度事業報告では、令和2年度会員数は団体会員3団体（北海道・岡山県・熊本県：増減なし）、個人会員8名（1名減）、賛助会員2団体（群馬県・山梨県：増減なし）であった。第15回全日本ホルスタイン共進会の中止により、協賛ブースを使った展示等ができなくなったが、酪農雑誌「デーリマン」2021年1月号に北海道ジャージー酪農振興協議会と共同で広告を掲載し、会員拡大に努めた。2021年分ジャージー手帳を登録協会とともに作成し、ジャージー専任の登録委員並びに関係者へ配布した。また、当協議会が造成したジャージー種雄牛「スイトン JW ミスター チーフ」の娘牛に係わる遺伝的能力評価の調査並びに共進会等の結果を調査した。

次に、第1号議案の(2)令和2年度収支決算報告について、原案のとおり承認された。

第2号議案の(1)令和3年度事業計画案について、原案のとおり承認された。優良ジャージーの普及推進を図るため、様々な対応を検討する。ジャージー関連の視察交流会を、日本ジャージー登録協会と共同で検討する。当協議会で造成した種雄牛「スイトン JW ミスター チーフ」の娘牛の体型および泌乳データを引き続き追跡調査する。酪農雑誌に広告掲載等を行い、引き続き会員拡大に努める。

(2)令和3年度収支予算案並びに会費案について、原案のとおり承認された。